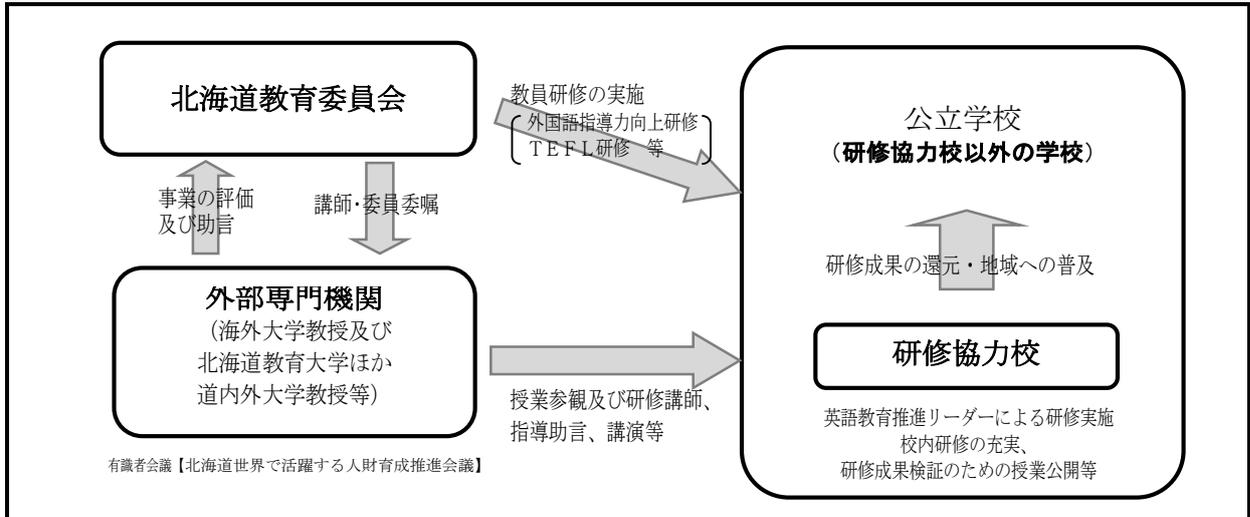


# 北海道英語教育改善プラン

## 1. 実施内容

### (1) 研修体制の概要



### (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

#### □ 「英語教育実施状況調査」結果を踏まえた目標・数値指標の設定について

平成27年度「英語教育実施状況調査」における北海道の現状は、

- ・求められる英語力を有する教師の割合 … 中 25.6% 高 44.4% (中 26.4% 高 44.6%)
- ・求められる英語力を有する生徒の割合 … 中 27.2% 高 27.9% (中 26.5% 高 23.0%)
- ・学習到達目標の設定状況 … 中 74.5% 高 51.4% (中 38.5% 高 45.9%)

(カッコ内はH26実績)

などとなっており、昨年度における同調査結果と比較すると、中・高ともに生徒の英語力が向上している一方、教師については低下している。

このような課題等を踏まえ、本道の英語教育に関する平成29年度までの目標値を国が示す目標を踏まえ、「目標管理書」(様式10)のとおり設定し、次の施策を講じる。

#### □ 目標達成に向けた手立てについて

##### ① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

- ・中央研修へ参加する教員を全道各地からバランスよく選出し、育成された英語教育推進リーダーによる研修を全道各地で実施することにより、地域による偏りのない英語指導力の底上げを図る。
- ・道立教育研究所において、カナダ・アルバータ州立大学教授を講師に招聘してオールイングリッシュで研修するTEFL (Teaching English as a Foreign Language) 研修講座の内容の充実を図り、参加教員の英語運用能力の向上を図るとともに、各地域の研究会等での還元を促す。
- ・道立教育研究所の外国語研修講座及び各種研修会に参加する英語担当教員に対し、外部検定試験の助成制度を周知し、受験を促し、英検準1級、TOEFL iBT80点程度等以上の達成を目指す。

##### ② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

- ・授業における英語担当教員の英語使用状況の改善や生徒の英語による言語活動時間を増加させることで、授業を通じて英語力の向上を図る。
- ・生徒に対し、外部検定試験の受験を励行するとともに試験対策を行う。

##### ③ 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

- ・道立教育研究所の外国語指導力向上研修講座において、学習到達目標の作成と活用の講座を設け、受講者の理解を深める。

- ・毎年、全教職員に配付している「教育課程改善の手引」や英語教育の中核となる教員を対象に実施している「教育課程改善協議会」において、学習到達目標の設定と公表及び活用について取り上げ、今後求められる授業改善や英語担当教員の指導力等について周知するとともに、指導主事の学校訪問において、設定状況等を確認し、改善に向けた指導を行う。
- ・研究協力校で作成したCAN-DOリストの形式での学習到達目標について、公開授業及び研究協議や、大学教授等の有識者等で構成する町内の英語教育推進会議、北海道世界で活躍する人材育成推進会議で助言を得ながら、改善を行う。

#### ④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

- ・「教育課程改善の手引」や「教育課程改善協議会」において、生徒の英語による言語活動の充実について取り上げ、今後求められる授業改善や英語担当教員の指導力等について周知するとともに、指導主事による学校訪問において、改善に向けた指導を行う。

#### ⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

- ・道立教育研究所の外国語教育関連講座において、パフォーマンステストの実施について指導し、各学校への普及を促す。
- ・「教育課程改善協議会」において、パフォーマンステストの実施について取り上げ、周知するとともに、指導主事の学校訪問において、実施状況等を確認し、改善に向けた指導を行う。

#### ⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

- ・「教育課程改善の手引」や「教育課程改善協議会」において、今後求められる授業改善や英語担当教員の指導力等について周知するとともに、指導主事による学校訪問において、改善に向けた指導を行う。

#### ⑦相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

- ・道立教育研究所において、TEFL研修講座の内容の充実を図り、参加教員の英語運用能力の向上を図るとともに、各地域の研究会等での還元を促す。
- ・小学校教員の英語力・英語指導力の強化を図るため、「英語力アップ夏季集中セミナー」を実施し、セミナー期間中、研修施設において、集中的に英語を使い、オールイングリッシュでの生活を送ることを通して、学校や地域における小学校英語教育の中核となる教員の英語力強化を図る。
- ・道立教育研究所の外国語研修講座及び各種研修会に参加する教員に対し、外部検定試験の助成制度を周知し、受験を促す。
- ・各小学校に中核教員の育成を目的とした研修講座を開設し、英語教育推進リーダーによる講座等を実施することにより、地域による偏りのない英語指導力の底上げを図るとともに、校内研修の充実により、他の教員への波及と英語力を向上させる。

#### ⑧研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

- ・道立教育研究所で実施する研修に加え、今後、中央研修等により育成される英語教育推進リーダーを講師として活用し、教育局・ブロック単位での研修を拡充して実施する。

## (3) 研修の体系と内容の具体

□道教委が実施する外国語担当教員向け研修講座				
研修名	対象者	目的・内容	予定者数	実施期間
外国語指導力向上研修講座	小中高教員	<p>外国語教育に関する理論について理解を深め、4技能を総合的に育成する指導力の向上及び英語教育の地域の中核となる人材の育成を目的として、北海道教育大学や道外大学などから講師を招聘し実施。</p> <p>・日数 3日間×3講座(北海道立教育研究所)</p> <p>・内容 ①小学校教員 外国語活動の現状と課題、外国語における指導と評価の工夫、外国語活動における小中連携、ALTとの効果的なTTの在り方等</p> <p>②中学校教員 CLILの活用、英語教育の現状と課題、4技能を確実に育成する目標の設定(CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定)、学習指導案の改善、模擬授業と協議等</p> <p>③高等学校教員 CLILの活用、英語教育の現状と課題、4技能を確実に育成する目標の設定(CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定)、学習指導案の改善、模擬授業と協議等</p>	小30名 中20名 高20名	小 H28～新規 中高 継続実施
「TEFL理論と実践」研修講座	小中高教員	<p>北海道が姉妹提携しているカナダ・アルバータ州から大学教授を招聘し、オールイングリッシュによる講義と演習を通して、英語教授法の修得及び英語運用能力の向上を図る。</p> <p>・日数 3日間×2講座(北海道立教育研究所)</p> <p>・内容 ①小学校教員 アルバータ州立大の英語教授法をもとに小学校で実践的な指導方法や英語運用能力向上に関する研修を行う。</p> <p>②中・高等学校教員 より高度な内容のステップアップ型の講座を開設し、授業における理論の具体的な活用法など実践的な内容を学ぶ。</p>	小30名 中10名 高10名	継続実施 (H13～)
英語力アップ夏季集中セミナー	小教員	<p>小学校の英語教育の教科化に対応するため、小学校教員の英語力や英語指導力の向上を図り、子供達に質の高い英語教育を保障できるよう取り組む。</p> <p>・日数 5日間×1講座(北海道立教育研究所)</p> <p>・内容 カナダ・アルバータ州立大学教授を講師として、5日間のセミナー期間中、研修施設において、集中的に英語を使い、オールイングリッシュでの生活を送ることを通して、学校や地域における小学校英語教育の中核となる教員の英語力強化を図る研修を実施。</p>	小60名	H28-H30 (3年間) H28～新規
外国語指導助手(ALT)等の指導力向上研修	小中高教員 ALT	<p>①カナダ・アルバータ州立大学教授を講師として、外国語指導助手(ALT)及び外国語教育担当教員等に対し、一層効果的な指導ができるよう、必要な知識・指導技術等の習得及び外国語教育に係る諸問題について共通理解を図ることを目的とし、1日間の研修を実施。</p> <p>・日程：9月中の1日間(札幌市内)</p> <p>・内容：技能統合型の言語活動を推進するためのALTの活用、TTにおけるALTの役割、効果的なTTの在り方等</p> <p>②外国語指導助手(ALT)及び外国語教育担当教員等に対し、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育にかかる諸問題について研究協議を行い、本道の外国語教育の充実を図るため、2日間の研修を実施。</p>	小10名 中40名 高40名 ALT360名	継続実施

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：12月中の2日間（札幌市内）</li> <li>・内容：基調講演、外部講師による講義、効果的なTTの在り方等</li> </ul>		
英語教育推進リーダーによる研修	小中高教員	<p>指導者養成を目的として中央研修に参加した英語教育推進リーダーの「研修実習」としての研修を実施するとともに、参加教員の指導力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日数 3日間×27会場（全道一円）</li> <li>・内容 小学校中核教員及び中・高等学校全英語担当教員を対象に、中央研修を受講した教員を研修講師として様々な演習を中心に各校種の英語教育の高度化に対応した内容とし、全道各地で研修を実施する。</li> </ul>	小 300名 中 390名 高 360名 計 1050名	H26-H31 (6年間)
計			小 430名 中 460名 高 430名 ALT360名 計 1680名	

上記研修のほか、初任者研修や経験者研修における教科別研修や教育課程改善協議会等に関連事業と位置付け実施する。

- 英語力評価テストについては、英語担当教員に対し、外部検定試験の助成制度を周知し、受験を励行し、英検準1級、TOEFL iBT80点程度等以上の達成を目指す。
- 研修の評価にあたっては、各種研修参加者に対し、アンケート調査を実施。（直後及び数カ月経過後に実施し、受講者の授業への反映状況、自校内への還元状況などを把握する。）  
また、道内大学教授等有識者により組織する会議「北海道世界で活躍する人財育成推進会議」において、報告、毎年実施される「英語教育実施状況調査」の状況や英語力評価テストの結果、研修受講者によるアンケート結果等を踏まえ、事業に対する評価を実施する。
- 研修協力校においては、英語教育推進リーダー（中央研修参加者）による授業公開や道内大学教授等外部専門機関から講師を招聘し、講演や指導助言等を実施することで、校内研修を充実させ、英語教員の指導力向上を図る。  
また、北海道が本事業で実施する取組の成果を検証するための文部科学省による実地検査において授業公開を行う。
- 外部専門機関においては、研修協力校が実施する模擬授業等に対する指導助言や講演を実施するとともに、道立教育研究所が行う外国語関連講座において、カナダ・アルバータ州立大学教授や北海道教育大学など道内外の大学教授を講師として招聘し、講義を実施する。  
また、道内大学教授等有識者により、本事業内容について検討を行う会議「北海道世界で活躍する人財育成推進会議」を組織し、次年度以降に向けた助言をいただき、各指標の進捗状況を踏まえ、次年度以降の改善プランの修正や事業内容の充実及び目標値の設定に反映させていく。

## (4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○英語教育推進リーダー中央研修（研修実習）（～3月） ○英語検定外部試験の活用促進（～3月） ○英語教育推進リーダー中央研修（集合研修1）（～7月）	ブリティッシュ・カウンシル
5月		
6月		
7月		
8月	○小学校教員英語力アップ夏季集中セミナー ○「TEFL理論と実践」研修講座（中学校・高等学校） （道立教育研究所） ○研修協力校における授業公開、指導助言 ○英語教育推進リーダー中央研修（実地研修）	カナダ・アルバータ州立大学教授 〃 道内大学教授等
9月	○研修協力校における授業公開、指導助言 ○「TEFL理論と実践」研修講座（小学校） （道立教育研究所） ○外国語指導助手（ALT）等の指導力向上研修 ○英語教育推進リーダー中央研修（集合研修2）（～12月）	カナダ・アルバータ州立大学教授 〃 〃 ブリティッシュ・カウンシル
10月	○英語指導力向上研修講座（中学校・高等学校） （道立教育研究所）	大学教授等学識経験者
11月	○研修協力校における授業公開、指導助言 ○外国語指導力向上研修講座（小学校） （道立教育研究所）	道内大学教授等 大学教授等学識経験者
12月	○北海道世界で活躍する人財育成推進会議（第1回） ○外国語指導助手指導力等向上研修会	有識者（道内大学教授等） 道内大学教授等
1月	○北海道世界で活躍する人財育成推進会議（第2回）	有識者（道内大学教授等）
2月	○北海道世界で活躍する人財育成推進会議（第3回） ○研修協力校における授業公開、指導助言	有識者（道内大学教授等） 道内大学教授等
3月	○英語教育推進リーダー全道連絡協議会	
【その他の取組】		

## (様式2) 目標管理書

都道府県等 教育委員会名	北海道教育委員会
-----------------	----------

※「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」を既に受託している場合は、事業申請書の他に別途で作成いただく必要はありません。本事業を受託していない都道府県におかれましては、H28年度以降の数値を、現状値(適宜欄を追加ください)も含めてご記入ください。H27年度以前の数値は、可能な範囲でご記入ください。

※指標の考え方については、別添3-4を御覧ください。

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29		
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①	求められる英語力を有する教師の割合(%)	44.7	50	46.4	60	46.3	65		75		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	27.4	30	23.5	35	29.4	40		50		
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	29.2	90	45.9	100	51.5	100		100		
		公表(%)	53.2	80	37.4	90	50.4	100		100		
		達成状況の把握(%)	51.9	80	47.9	90	83.2	100		100		
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	61.2	70	53.4	80	57.1	90		100		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	コミュニケーション英語Ⅰ	1.4	1.5	1.2	1.6	1.6	1.8		2.0	
			スピーキングテスト(回)		1.5	1.1	1.6	1.6	1.8		2.0	
			コミュニケーション英語Ⅱ				1.0	0.8	1.5		2.0	
			英語表現Ⅰ	1.5	1.5	1.4	1.6	1.2	1.8		2.0	
			英語表現Ⅱ		1.0	0.6	1.2	1.0	1.6		2.0	
		ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	0.7	1.0	0.4	1.2	0.5	1.6		2.0	
			コミュニケーション英語Ⅱ		1.0	0.4	1.2	0.6	1.6		2.0	
			コミュニケーション英語Ⅲ				1.0	0.5	1.5		2.0	
			英語表現Ⅰ	1.3	1.5	0.8	1.6	0.8	1.8		2.0	
			英語表現Ⅱ		1.5	1.5	1.6	1.1	1.8		2.0	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	81.3	85	68.8	90	69.3	95		100		
⑦	英語担当教員に対する研修実施回数		12	12	12	21	33		40			
	研修受講者数		180	156	240	359	570		600			
	(参考)英語担当教員数		1105	1111	1101							

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29		
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する教師の割合(%)	27.3	30	28.6	36	27.8	39		50		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	23.6	25	27.3	32	28.1	39		50		
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	13.4	60	34.9	100	66.4	83		100		
		公表(%)	2.7	80	3.7	100	6.7	53		100		
		達成状況の把握(%)	7.0	80	16.0	100	25.2	62		100		
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	46.9	60	53.0	70	62.6	80		90		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)				3.0	3.1	3.5		3.5	
			ライティングテスト(回)				1.5	1.6	2.0		2.0	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	38.3			65	46.7	73.4		100		
	⑦	英語担当教員に対する研修実施回数		12	12	12	27	48		50		
		研修受講者数		180	120	240	447	600		650		
		(参考)英語担当教員数		2328	2350	2390						